

本活動レポートは平成 25 年度に作成したものであり、
登録者の所属及び内容は作成時のものです。

人材登録事業の活用事例

【鳥獣保護管理調査コーディネーター】

■人材登録事業利用者

群馬県自然環境課

■依頼を受けた登録者（鳥獣保護管理調査コーディネーター）

姉崎智子（群馬県立自然史博物館）

■登録者への依頼事項（概要）

カモシカに関する科学的データの蓄積と、市町村へのフィードバックの仕組みの構築について依頼した。

（利用者からの報告）

■利用申請に至った背景

検討会で、カモシカの保護管理に関する科学的データの収集と整備について指摘されていたことから、科学的データの蓄積と、市町村へのフィードバックの仕組みを構築する必要から、専門家の参加が必要となった。

■登録者との事前調整

科学的データの収集・整備について、県内で完結できるような仕組みを一緒に作っていただくことを依頼した。県の業務としての実施であるため、必要な経費は確保した。

■本事業の活用による成果（利用者の感想）

群馬県内のカモシカ保護管理に関して、基礎情報の蓄積と解析を担っていただいている。



角輪数のカウントとともに、歯の萌出・交換・咬耗状況も観察して年齢査定を行っている。

（登録者からの報告）

■ 依頼を受けて実施した内容

群馬県カモシカ適正管理計画に基づく市町村のカモシカ個体数調整の実施において、捕獲個体の分析を行い、その結果をすみやかに市町村にフィードバックすることと、計画が適正に実施されているかを検討するための基礎資料が必要となっていた。そのため、検体の収集の仕組みについて見直しを行い、より詳細な情報が得られるよう改善した。このことにより、カモシカに関わる科学的なデータ整備の基盤は整い、標本を収蔵登録、一般公開することにより検証可能となった。

また、鳥獣保護管理調査コーディネーターとして群馬県カモシカ適正管理計画検討会にオブザーバー（発言権有）として出席し、県内の状況について情報提供を行っている。

■ 報告等

群馬県において、鳥獣保護管理に係る人材登録事業についての認識は薄く、ほとんど知られていないが、自然環境課では、本人材登録制度を有効に活用くださっており、今後、より定着していくことを期待している。

鳥獣の捕獲数が、鳥獣による農林業被害の減少と相関関係にはないという認識がなく、野生動物の捕獲に偏る傾向が強い。地域の根本的な課題を解決するためには防除と環境整備、地域活性化による経済循環をもたらすようなPDCAサイクルが必要であるが、それが定着していない現状において、「被害」の減少を達成することは未だ課題が多いと思われる。

従来から、科学的データの不備を検討会等で頻繁に指摘されていたが、カモシカに関する科学的なデータ基盤の整備と、データを市町村にすみやかにフィードバックする仕組みについては構築できた。今後は、対策実施の有無、対策効果、対策評価など、人の努力に関わる部分の可視化に焦点が当てられ、本質的な解決につながることを期待している。



人材登録事業の活用事例

【鳥獣保護管理調査コーディネーター】

■人材登録事業利用者

群馬県自然環境課

■依頼を受けた登録者（鳥獣保護管理調査コーディネーター）

姉崎智子（群馬県立自然史博物館）

■登録者への依頼事項（概要）

ツキノワグマに関する科学的データの蓄積と、市町村へのフィードバックの仕組みの構築について依頼した。

（利用者からの報告）

■利用申請に至った背景

検討会等で、ツキノワグマの保護管理に関する科学的データの収集・整備について指摘されていた。このため、科学的データの蓄積と、市町村へのフィードバックの仕組みを構築する必要があったことから、専門家の参加が必要となった。

■登録者との事前調整

群馬県ツキノワグマ適正管理計画に基づき、科学的データの収集・整備について、県内で完結できるような仕組みを一緒に作っていただくよう依頼した。必要な経費は、県の業務として予算措置した。

■本事業の活用による成果（利用者の感想）

群馬県内のツキノワグマ保護管理に関して、基礎情報の蓄積と解析を担っていただいている。



捕獲されたツキノワグマ

（性・年齢査定、体測、胃内容物の確認、遺伝子の確認など、保護管理のための情報として整理）

（登録者からの報告）

■依頼を受けて実施した内容

群馬県ツキノワグマ適正管理計画に基づく市町村のツキノワグマ個体数調整の実施において、捕獲個体の分析を行い、その結果をすみやかに市町村にフィードバックするとともに、計画が適正に実施されているかを検討するための基礎資料とした。

また、検体の収集の仕組みについて見直しを行い、より詳細な情報が得られるよう改善した。このことにより、ツキノワグマに関わる科学的なデータ整備の基盤は整い、標本を収蔵登録、一般公開することにより検証可能とした。年齢、性別、繁殖状況、食性の分析の他に、東京農業大学、同志社大学と協働で遺伝子解析、GIS 解析などを行い、群馬県内におけるツキノワグマの生息状況や個体群動態を明らかにしつつある。放射性セシウムによる汚染状況についても、県機関と連携して分析を行っている。

また、鳥獣保護管理調査コーディネーターとして群馬県ツキノワグマ適正管理計画検討会にもオブザーバー（発言権有）として出席し、県内の状況について情報提供を行っている。

■報告等

群馬県において、鳥獣保護管理に係る人材登録事業についての認識は薄く、しかし、自然環境課においては、人材登録していることを有効にご活用くださっており、今後、より定着していくことを期待している。

ツキノワグマに関わる科学的なデータ基盤の整備と、データを市町村にすみやかにフィードバックする仕組みについては構築できた。しかし、地域の根本的な課題を解決するための防除と環境整備、地域活性化による経済循環をもたらすためのPDCA サイクルが定着しない現状において、「被害」の減少を達成するためには、未だ課題が多い状況である。

従来、科学的データの不備を、検討会等で頻繁に指摘されてきたが、データ整備とフィードバックの体制が構築されたことで、今後は、対策実施の有無、対策効果、対策評価など、人の努力に関わる部分の可視化に焦点が当てられ、本質的な解決につながることを期待している。また、本人材登録事業を活用しながら、人が暮らす自然環境と生態系の中における位置づけなどに関する理解の向上に寄与していきたいと考えている。

